

平成22年度 事務事業評価

整理番号

38-23

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	02	01	01	09	01
細事業名	入札・契約事務(電子入札)					

担当部局	
財務部	
担当課等	担当課長の氏名
入札契約課	芝野 和之
	担当者の氏名
	安田 悦雄

PLAN

総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策)	Ⅶ 計画推進のために				
	計画項目 (施策)	① 効率的な行政運営の推進				
	施策方針	3 事務事業の見直し				
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか)	建設工事等の入札手続きを、インターネット技術を介して行うことで、入札参加者の受注機会の拡大、入札情報取得の利便性向上、入札・契約の透明性・公平性の一層の向上と共に入札事務の効率化を図る。	平成26年度 事業の效果目標	(平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)	建設工事A等級及びB等級並びに測量・建設コンサルタント業務等について、電子入札を全面実施する。建設工事C等級について、電子入札を実施するために、意向調査等を行い環境が整い次第、実施に向けて進めていく。	

DO

平成21年度 事業の実績	(何を対象に、何をしたか)	建設工事A等級及びB等級並びに測量・建設コンサルタント等業務について一部計画を前倒しし、下半期からは全件を電子入札により実施した。 ○建設工事について109件を電子入札により実施した。実施率38%。(全執行件数292件) ○測量・建設コンサルタント業務について54件を電子入札により実施した。実施率65%。(全執行件数84件)
平成21年度 事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入)	入札参加要件を満たす者が、自社に居ながらにして移動距離等に制約されずに入札に参加できるため、受注機会の拡大にもつながり、移動時間の削減や業務の効率化が図れた。

●平成21年度決算

歳出			歳入			
予算科目	節	金額(千円)	財 源 内 訳	項目	名称	金額(千円)
	9	38		国庫支出金		
	11	62		府支出金		
	12	91		起債		
	13	341		分担金・負担金		
	14	2,745		その他		
				一般財源		3,277
事業費合計	3,277		合計	3,277		

CHECK

評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか		
	○	○ 進捗している(できている)	理由 建設工事A等級及びB等級並びに測量・建設コンサルタント等業務について、電子入札運用スケジュールに基づき、下半期からは全件を電子入札により実施できた。
		▲ 少し遅れている(少しできていない)	
		× 遅れている(できていない)	
	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか		
	○	○ 削減の余地がなかった	理由 紙で行っていた一連の入札業務を電子化し、インターネット技術を用いて行うための電子入札の運用関連経費であり、削減の余地はなかった。今後、電子入札を拡大する中で電子入札システム利用料が増加することになる。
		▲ 少し削減の余地があった	
		× 削減の余地があった	

ACTION

改善	事業内容の方向性			
	A	A 現状維持	理由	電子入札の拡大については、今後も進めていく。
		B 内容の見直し		
		C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性			
	A	A 事業拡大	理由	建設工事C等級の案件について、電子入札を拡大するために、意向調査等を行い今後の拡大に向けて進めていく。
		B 現状維持		
		C 事業縮小		

平成22年度 事務事業評価

整理番号

38-24

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	02	01	01	09	02
細事業名		入札監視委員会				

担当部局	
財務部	
担当課等	担当課長の氏名
入札契約課	芝野 和之
	担当者の氏名
	安田 悦雄

PLAN

総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策)	Ⅶ 計画推進のために				
	計画項目 (施策)	① 効率的な行財政運営の推進				
	施策方針	3 事務事業の見直し				
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか)	入札及び契約の過程並びに契約の透明性・公平性の確保を一層確実なものとするため、第三者による入札監視委員会により審査を行う。	平成26年度 事業の効果目標	(平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)	学識経験者等で構成される入札監視委員会を開催し、市が発注する建設工事について、第三者の中立・公正な立場から客観的な審査等を受けることにより、入札及び契約の過程並びに契約の内容の透明性と公正な競争の確保を図る。年2回開催。	

DO

平成21年度 事業の実績	(何を対象に、何をしたか)	市発注工事等の入札及び契約案件(随意契約を含む。)を対象に、入札監視委員会を年2回開催し審議を行った。 ○平成21年7月14日、第1回開催し、対象案件118件中、6案件を抽出し審議を行う。 ○平成22年1月15日、第2回開催し、対象案件131件中、6案件を抽出し審議を行う。
平成21年度 事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入)	第三者の中立・公正な立場から客観的な審査等を受けることにより、入札及び契約に関して市民からの疑惑を招くことのないようにするとともに、適正な施工を確保することを目標とし事務執行することができた。

●平成21年度決算

歳出			歳入			
予算科目	節	金額(千円)	財源内訳	項目	名称	金額(千円)
	8	84		国庫支出金		
	9	20		府支出金		
	14	38		起債		
				分担金・負担金		
				その他		
				一般財源		142
事業費合計	142		合計		142	

CHECK

評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか		
	○	○ 進捗している(できている)	理由 入札監視委員会の活動状況について、審議の議事の概要その他必要な資料を公開することにより、透明性の確保が図れた。 また、発注者に対して内容の審査及び意見の具申を行い、発注者は具申された意見に対しては可能な限り、速やかにかつ誠実な対応に努めるものとした。
		▲ 少し遅れている(少しできていない)	
		× 遅れている(できていない)	
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか		
	○	○ 削減の余地がなかった	理由 入札監視委員会の運営に係る費用は、委員の委嘱に要する謝礼・旅費、会場設営に要する会場借上費等の必要最小限の経費である。特に、スケジュールの過密な委員に委嘱しているため、京都市内での開催となるため、経費削減の余地はなかった。
		▲ 少し削減の余地があった	
		× 削減の余地があった	

ACTION

改善	事業内容の方向性			
	A	A 現状維持	理由	入札及び契約の過程並びに契約の内容の透明性を確保するため、中立・公正な立場で客観的に審査を行い、意見の具申とともに資料の公開を行う。
		B 内容の見直し		
		C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性			
	B	A 事業拡大	理由	公共工事は、経済活動や市民生活の基盤となる社会資本整備を行うものであり、その入札及び契約に関して市民からの疑惑を招くことのないようにするとともに、適正な施工を確保し、良質な社会資本の整備が効率的に行われるよう監視する必要がある。
		B 現状維持		
C 事業縮小				